

平成28年度 糸魚川市教育研究会生活・総合部 活動報告

部長 松澤 隆

1 研究主題 「豊かにかかわり 自分を見つめ よりよく生きる子ども」

2 研究の概要

糸魚川市教育研究会では生活科と総合的な学習の時間な学習の時間についての研修を目的とする標記「生活・総合部会」としての研修を実施する。研究主題を踏まえた活動計画作成の資料として、部員が所属校の年間指導計画を冊子にまとめ、市内全校に資料として配付する。また、研究主題に沿った授業研究会を行う。

3 研究の実際

(1) 授業研究

今年度は中学校の総合の授業を部員全員で参観し、小中学校が児童生徒の発達段階を踏まえた適切な授業づくりをいかに進めるべきかについて研修を深めた。

期 日：平成28年10月12日（水）5校時 糸魚川市立能生中学校2学年

授業者：糸魚川市立能生中学校2学年部

題材名：「職場体験学習」

本時の活動：職場体験新聞を活用した職場体験のまとめの発表を行い、仕事や働くことについて考えを深める。

(2) 授業の概要

1年生では「職場訪問」や「身近な人へのインタビュー」「職業調べ」を通して、働くことや職業について学んだ。2年生1学期には職場体験の事前学習や計画立案、履歴書づくりや事業所へのお願い、事前打合せなどを行い、夏休み中の8月に地域事業所等で職場体験を行った。

夏休み明けの2学期は、職場体験のまとめとして、体験先への礼状、職場体験新聞を作成した。体験を通してあいさつやマナーの大切さを実感したという感想も聞かれたが、そのような実感が必ずしも生活や学習に活かされていないという実態がみられた。このような中、本時では生徒が個々に作成した職場体験新聞を提示して、職場体験で感じた働くことの意義や、満足感、達成感、勤労観について、互いの発表を聞き合った。

生徒は、簡単だと思っていた仕事の意外な難しさ、あいさつや返事、人の話をしっかり聞くこと、自分から積極的に働くこと、周りを見て行動すること、整理整頓などの大切さへの気付きなどを述べていた。また、客からありがとうと言われたときの喜びや、明るく丁寧な言葉遣いは相手への思いやりを示すことになる等の実感を率直に話していた。

(3) 協議の概要

自分が体験した以外の職種についての同級生の発表に、じっと耳を傾ける視線。生徒の中には体験をもとに将来の職業について語る者もあり、真剣に聞き入る姿があった。職場体験という点では共通するものの、内容が大きく異なる互いの体験を聞き合う活動の有効性を改めて感じる事ができた。

中学校2年生は本音を語ることに気恥ずかしさもあるようだが、交流を通して積極的に他者の体験や考えを取り込み、同時に自分の考えをもとうとしていると感じた。その意欲に応える活動を授業者がさらに工夫する必要がある。発表について、必ずひと言ずつコメントするというルールをつくることや、今回は新聞を提示したが、お気に入りの写真2枚を選びそれをもとに体験談を話すという方法もよいのではないかという意見が出た。中学生の豊かな感性に応える手だてはまだ工夫できると考えられる。

4 成果と課題

指導者として糸魚川市教育委員会こども教育課統括指導主事 亀山 浩様をお迎えし、糸魚川市が重視するキャリア教育の視点からご指導をいただいた。中でも、キャリアプランニング力、仕事がうまくいかなかったときのキャリアカウンセリングの視点からの授業づくりという課題をいただいた。今後の研修に生かしていきたい。